

同窓会総会

昨年八月五日(土)、南相馬市原町のロイヤルホテル丸屋において、今年度の同窓会総会が開催されました。四十名ほどの参加があり、事業報告、決算報告、事業計画、予算案等の議案が審議され、すべて承認を得られました。他にも八十周年記念事業の概要、原高後援会の状況などについて、活発な議論がなされました。

総会後には恒例の懇親会も開催され、世代を超えた交流が深められました。今年は八月四日(土)に開催され、一面に概要を掲載してありますが、七月中旬に詳細を原町高校ホームページに掲載する予定です。同窓生であれば、どなたでも参加できますので、お気軽にご出席ください。

同窓会活動協賛金 現状報告

昨年三月から、役員、世話人の方々のお力添えをいただき、平成二十九年度活動協賛金の募金活動を行ってまいりました。一月十二日現在で、百十七件、六二五〇〇〇円(手数料一八八〇円を含む)のご寄付をいただいております。間もなく築三十年を迎える柏曜会館には、修繕が必要な箇所が増えており、今回はボーラー修繕に五十三万円程の支出をさせていただきました。来年度も、現役生徒の活動の支えになるよう募金活動を行う予定でありますので、今後ともご協力をお願いします。

寄附紹介

昨夏、同窓会事務局に茨城県在住の但野茂さん(三回卒)から現金書留が届きました。

支部だより

【東京支部総会】

ふるさとの復興・発展を願って



平成二十九年十月九日(月)に原高同窓会東京支部総会・懇親会が、上野精養軒で開催されました。開催までの役員の手をねぎらうかのように多数(百四十五名)の方に出席していただきました。今回は、同窓会本部事務局長、草野圭一先生の教え子六名の学生が出席し、総会・懇親会を盛り上げてくれました。

第一部の総会は、小沢一男氏(二十回卒)の司会で始まり、最初出席者全員でこの一年に亡くなられた方々への冥福を祈る黙祷をいたしました。次に、来賓の方、遠隔地からお越しいただいた方、避難されている方、新会員(学生)の紹介の後、紺野政弘(十一回卒)支部長の挨拶がありました。久米文二氏(十九

若い世代の同窓会

平成三十年一月八日、六十八回卒生が成人式を迎えました。六日には、原町のロイヤルホテル丸屋において、同窓会が開催され、百十人ほどの参加者が集い旧友を温めました。高校三年間、共に切磋琢磨し合った仲間達や担任の先生方と久しぶりに再会を果たすことができた。

高校時代と比べ、変わった人、変わらぬ人がいたけれど、話す中身は変わっていない。話すと中身は変わっていない。皆、大人になり、話したことがなかった人とも会話を弾ませ、和気藹々としていた。まるで、昼休みや放課後のような、とても楽しく懐かしさを感じさせるような空間だった。高校生に戻った気分にもなれた。迷惑をかけた先生方に、少しでも立派になった姿を披露できたのではないかと思います。開催にあたり、会場の手配や参加者の確認が大変だったりと、

パド部のOB会組織される



盛大に開催された六十八回卒生同窓会

創部四十周年を迎えたパドミントン部のOB会が組織され、平成三十年一月二日、原町区のラフォーヌにおいて、

回卒)からの活動報告、遠藤吉樹氏(二十四回卒)からの会計報告、遠藤栄氏(十六回卒)からの監査報告がありました。その後、来賓の方々の挨拶が続き、現原高の佐川尚史校長、明石澤啓雅同窓会副会長(二十一回卒)と続き、原高の現状、生徒たちの進路、部活動等の活動について、草野圭一同窓会事務局長(二十九回卒)から報告があり、最後に、桜井勝延南相馬市長(二十六回卒)より南相馬市の現状と復興に向けた力強いメッセージと今後の方針、計画の報告があり、第一部が終了しました。

第二部の懇親会は、安部次男氏(二十一回卒)の司会から全出席者の紹介の後、古室理顧問(三回卒)の乾杯の後には懇談に入り、再会を喜び合う人、暫くぶりに会う友人、先輩、後輩達と尽きない話題で、時の経つのも忘れ盛り上がりしました。宴も酣になったところで、相馬清志氏(湊清一十一回卒)の相馬民謡、相馬氏リドによる全員参加の盆踊り、若い同窓生のリードによる校歌の大合唱、会場は最高の盛り上がりを見せました。最後に、西内利幸事務局(十九回卒)から「ふるさと」の復興・発展」を祈りつつ、閉会の挨拶で三時間に及ぶ総会・懇親会の幕を閉じました。次回の第三十五回総会は、平成三十年十月八日(月、祝)に上野精養軒(上野公園内)で開催する予定です。

母校実習を終えて



創部40年を迎えた原高バドミントン部。41名がOB会に参加しました。

今回、私は養護教諭の教育実習で三週間お世話になりました。養護教諭を志したきっかけは、私が「まさに原高生」だった時です。とある経験が私自身を大きくさせてくれ、養護教諭という素晴らしい職業に導いてくれました。

教育実習を終えた今、

私のこれから目標は「教員採用試験の合格」と「授業力アップ」です。私は実習が始まるまで、大

【小高支部】

支部再会に向けて

この一年近く小高支部再建のために動いていますが、未だに遅々として進んでおりません。震災前に支部活動を担ってきた人も高齢化を理由に辞退したり、他地区へ移動したりされています。何から事をすすめていくべきか暗中模索です。小高の甲子大國社の田代公啓宮司(二十六回卒)など何人かと相談しながら進めています。まずは小高区内各地域から代表者となってい

うと考えています。しかし、実習がスタートしてから考えが変わりました。「教師」という仕事の素晴らしさを実感したからです。同時に、自らの未熟さを実感しました。元々、人前で話すことを得意程度はできないだろうという気持ちがありました。しかし、指導教官である小野田先生から教材研究の奥深さ、クラス経営の重要性を学ぶにつれ、自分の「慢心」が恥ずかしく、授業・生徒に対する接し方を見つめ直しました。先生方の教えを基に実習授業を重ねて行く中で、生徒たちが真剣に話を聞いたり、時には笑ったりしてくれ、充実した三週間を過ごすことができました。私はまだまだ力不足ですが、その分努力すれば、授業はまだ上手くなると思います。教員採用試験に合格し、また原高の教壇に立ちたいと思います。

岡田千安紀(六十八回卒)



牛来 新(六十八回卒)